人にやさしく
地球にやさしい

大日新聞

五号

大日化成株式会社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755　FAX：06-6909-6702
URL：http://www.dainichikasei.co.jp

アスベスト除去工事には・・・

水ゲル型アスベスト除去用
湿潤材ベストール

ポリマーセメント系塗膜防水材ビッグサンをはじめとする水系材料は、これまでの溶剤系に置き換わる環境に優しい建築・土木資材として提唱している製品であり、現在も順次開発を進めています。今回は、その一つである下地調整材のご紹介です。

下地調整材とは

防水工事に当たり重要な工程として、下地処理の工程があります。密着防水の工事は下地の善し悪しで施工が決まると言っても過言ではありません。下地の表面が脆弱であった場合は、いくら付着強さが優秀な材料でも直ぐに剥がれやふくれが起きてしまいますし、凹凸がひどいと、均一な厚みの防水層が得られません。下地調整材は、こんな状態の下地を改善するための材料で、防水材を塗布する前に下地に直接塗布し、平滑且つ良好な表面状態を形成し施工前の下地のコンディションを整える重要な材料です。

利便性と性能の向上、スカイレジンエポフィラー

当社では、この種の下地調整材料として、水系エポキシ樹脂系ポリマーセメント型下地調整材「スカイレジンエポフィラー」という製品を販売しています。

エポキシは、一般的に利便性を向上させると、物性等性能や安全性が犠牲となる傾向があるといわれていますが、この材料は従来のエポキシポリマーセメントと比較して利便性と性能、そして安全性の全てを飛躍的に向上させる事に成功した材料です。

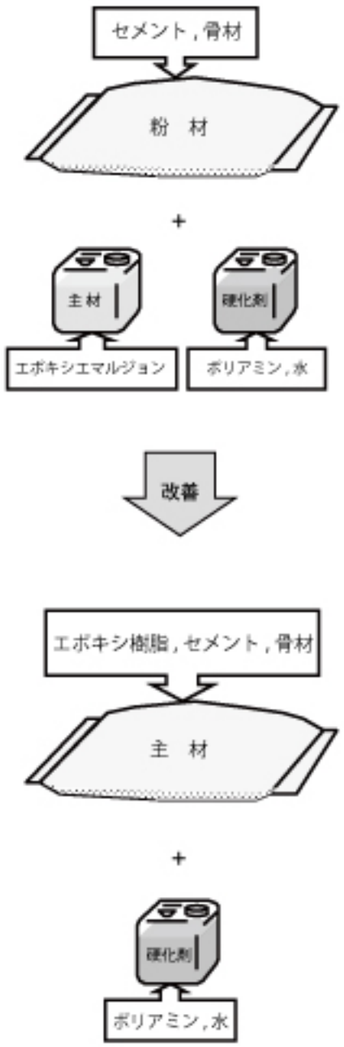
便利な2材型エポキシポリマーセメント

エポフィラーの大きな特長の一つに2材型であることがあります。今までの常識からするとこの種の材料は、エポキシエマルジョンと水系アミンと粉材の3成分で構成されています。これは、従来よりエポキシエマルジョンの使用が前提となっていたため、水を含んだエポキシエマルジョンと硬化剤とセメント系フィラーを分けなければならなかったという理由があります。しかしそこを当社ではエポキシ樹脂を特殊な方法で微粉末に均質分散させることに成功、これにより従来の3材型を2材型にする事が出来たのです。結果的に便利なだけでなく、粉材は少し混濁感を帯びた性状となり、混合時のほこりの発生も大幅に減少、更に容器も2/3に節約することが出来ました。

ソープフリーで性能面も安全性も向上

一方、性能面ですが、従来のエポキシエマルジョンに指摘されるのが大量に添加されている界面活性剤という成分です。この界面活性剤は単体でも有害な物質もあるのですが、いわゆる石鹸の様な成分ですので、硬化後に耐水性や耐薬品性に悪影響を及ぼし、材料強度や付着強さまでも損なう要因となります。エポフィラーは通常のエポキシエマルジョンを使用しておりません。これによって、従来の界面活性剤による有害性や性能面へのリスクがありません。

スカイレジンエポフィラーは、利便性と性能、そして安全性が向上した、正に合理的な製品なのです。



それでも、やせ我慢を続ける。

「北海道のミートホープ社がセンセーショナルに国民の見せしめになったのだから、多くの同業者はもう偽装は止めただろう」と考えるのはアサハカなようで、今年になってからでも丸明による飛騨牛の偽装があきらかになりました。船場吉兆も世間様からきついお叱りを受けたにもかかわらずに、相変わらずマヤカシを続けていたことも見つかって、ついに廃業に追い込まれました。

我々の業界も、厳しい競争の中で生き残りをかけて、マヤカシと偽装のオンパレードの状況になってしまったようです。当社ではアスベスト除去用湿潤剤（ベストール）を発売しているのですが、不思議と売り上げが伸びていきません。実際に施工している下請け業者に直接、どうして売れないかを聞いてみました。以前は使えていたようですが、元請が安い価格で受注するので、それに合わせるためには最近は湿潤材を使うお金も出てこないのだそうです。国交省の指導はあっても、危ないことは判っていても、使わないでアスベストを除去し解体するのだそうです。せめて水でも使えばいいのでしょうが、それも使えないくらいの厳しい価格競争に陥っていると聞きます。30年後に再び、アスベスト除去作業中の被爆により二次災害がおきるのではとおせっかいな心配をしてしまいます。

作業者のために、「人にやさしい、環境にやさしい商品をつくり続けて30年」このオリジナルのコピーは、我社のオリジナルのようなものだったのですが、最近は流行なのでしょうが、どの防水メーカーも環境にやさしいというコンセプトを前面で使うようになってきています。防水剤の中身は溶剤の臭いが立ち込めていても、容器がリサイクルだから環境にやさしいのだといいます。コバルトのような劇薬を触媒につかって造膜させても、作業者にどんなに危なくても、防水層が出来上がれば「安全で耐久性に優れている」と宣伝しています。昔は防水工といえども職人としての見識をもって、どの商品が優れているか、また、使いやすいか、安全なのかを判断して、建設業者の方に薦めていた時代がありました。最近は、どの元請も下請けを選定する手法はお決まりで、許可された範囲のものなら何でもいい、最も安価な製品を使い、腕のある職人より安い工賃の作業者を使うというスタイルに、すべて統一されてしまった感があります。その結果どの現場も、メイド・イン・ジャパンからメイド・イン・チャイナの部材に変わり、職人と呼ばれている人はいなくなって安い賃金で働く派遣の外国人が増えてしまいました。確かに、彼らは臭くても危なくても何も言いません。日本語は大丈夫か、仕様書が読めるのかと心配してしまうぐらいです。

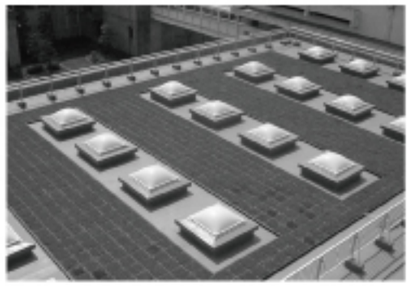
当社のメイン商品であるビッグサンやスカイレジンは、容器に入ったままでは半製品であり、作業者が施工してはじめて防水という機能を持つ商品となります。それは、シート防水にしてもアスファルト防水にしても、同じ事なのですが。長持ちするとか、漏水しないとかは、製品の品質の良し悪しだけではなく、作業者による施工の手腕に拠るところが大きいものです。当社の営業社員は新しい施工店が増えるたびに、全国津々浦々で作業服を着て施工指導しながら職人さんを育ててきました。ですから、長く当社の商品を使って頂いている古い施工業者については心配することはありません。ですが、少し安いからというだけで、コロコロ下請け工を変えられると、さすがに施工指導も追いつかなくなります。こんな状況はいつまで続くのでしょうか。

時代に取り残されそうになりながら、まだ「人にやさしい、環境にやさしい商品」を、昔ながらの手法で販売しているのですが、「人にやさしいアスベスト除去湿潤剤」はヒットする蓋振りは見せませんし、病院や学校の改修に最適な、「臭いのしない環境にやさしい防水材ビッグサン」も、爆発的に売れる様子もありません。どうせ他人が使うのだから危なくてもいい、激安のヒット商品を開発して金儲けしてみるか、という誘惑にかられてしまう時もありましたが。ダメダメ折角長い間、「人にやさしい、環境にやさしい」というコンセプトで今日までできたのだから、と気を取り直し、今まで通りコンセプトに忠実に、恥ずかしくない商品をコツコツと販売するしかない、と、やせ我慢しながら社業に邁進している今日この頃です。

大日化成株式会社
小林　知義

こんなところで活躍しています

浄化センター屋上（VUS500）



BIG SUN <建築用防水材>

エコマーク認定商品

BIG SUN <土木用防水材>
ポリマーセメント系塗膜防水材

V.U.S <ベジルーフ・ユニット・システム>
屋上緑化を手軽に実現！